

⑩ 日本国特許庁(J.P.)

⑪ 特許出願公告

⑫ 特許公報(B2) 平2-60193

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成2年(1990)12月14日

G 09 G 5/12
G 06 F 3/153
G 09 G 1/04
1/16
5/18

P 8121-5C
8323-5B
8121-5C
A 8121-5C
8121-5C

発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 CRT表示装置

⑯ 特 願 昭59-207839

⑰ 公 開 昭61-84688

⑱ 出 願 昭59(1984)10月2日

⑲ 昭61(1986)4月30日

⑳ 発 明 者 河 村 善 夫 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社
内

㉑ 出 願 人 シャープ株式会社 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

㉒ 代 理 人 弁理士 杉山 毅 至 外1名

審 査 官 山 崎 達 也

1

2

㉓ 特許請求の範囲

1 走査線数を400ラインと200ラインとに切換可能なCRT表示装置において、水平同期信号を計数するカウン手段と、このカウン出力により制御パルスを形成する手段と、上記カウン手段を垂直同期信号によりリセットする手段とからなる判別回路を備え、上記リセット時における制御パルスの有無に従い400ラインモードへ切換することを特徴とするCRT表示装置。

発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本発明はパーソナルコンピュータ等の電子機器の表示に用いられるCRT表示装置において、その走査線数を400ラインと200ラインとに自動切換可能にするものに関する。

<従来技術>

近年、パーソナルコンピュータ等の計算機では、その漢字表示を可能にするためにグラフィック機能の高性能化が進行しており、これらの多くは320×200ドット及び640×200ドットあるいは640×400ドットの出力が出ている。

このグラフィック表示に対応するCRT表示装置は、320×200ドット及び640×200ドットのものにおいては、その走査線数が一般に市販されているテレビジョン受像機の走査線数230ライン以下なので、CRT表示装置として使用する際に改良

する点が少なく、特に家庭用においては、テレビジョン受像機と兼用する場合も多い。

一方、640×400ドットの表示を行なうCRT表示装置においては、その走査線数が多くなるため、原理的には垂直偏向周波数を下げる必要がある。実際には、垂直偏向周波数はブラウン管のフリツカを防止するためにあまり低下させることはできず、例えば200ラインの60Hzに対して50～55Hz程にしか下げられない。そのため水平偏向周波数を上げる必要があり、200ラインの15.75KHzに対して22.73KHz程上昇せられる。そのため、通常のテレビジョン受像機とはその垂直、水平偏向周波数が大きく異なるため、CRT表示装置は専用化されることが多い。

したがって、このような400ラインの受像機は特に家庭用においてはその需要が少なく高価なものとなり易いものであった。

<目 的>

本発明は上記欠点を除去するものであり、走査線数を200ラインと400ラインとに自由に切換ができ、テレビジョン受像機と共用することのできるCRT表示装置を提供するものである。

<実施例>

以下、本発明の一実施例を図面に従って説明すると、第1図は、走査線数200ラインと400ラインの切換を行なう基本構成を示すブロック図であ

(4)

特公 平 2-60193

第2図

